

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）企画書

みんなで地域づくり事業企画書

<p><b>団体名</b></p>	<p>ダンボールコンポストの会</p>	
<p><b>事業名</b></p>	<p>ダンボールコンポストによる生ごみ堆肥化の普及事業</p>	
<p><b>目的・必要性</b></p>	<p>①家庭から出るごみの70%以上を占める可燃ごみのうち、約20%は水分が多くて焼却に大変な負担がかかっている「生ごみ」を市民の手で堆肥化し、庭や畑に戻して可燃ごみの削減を図ることを目的とします。</p> <p>②かつての市の助成金でコンポスト容器を購入した方の中でも、容器を使いこなせていない方がいらっしゃるようです。ダンボールコンポスト講習会の中で、従来のコンポスト容器の上手な使い方の説明も行い、様々な方法での堆肥づくりの技術を市民が身につけることで、多くの市民が生ゴミの削減を実施できるようにします。</p> <p>③生ゴミの堆肥化を通じて、庭づくり、畑づくりなどの情報交換の場を提供し、市民の交流の場を作ります。</p>	
<p><b>内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ダンボールを使った生ゴミ堆肥作り」講習会の開催</li> <li>・堆肥づくりフォローアップ講習会と堆肥の使い方講習会の開催</li> <li>・生ゴミ堆肥化の情報交換会の開催</li> <li>・活動情報紙の発行</li> <li>・他市での生ゴミ堆肥化事業の見学会開催（小田原市を予定）</li> </ul>	
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>6月</p>	<p>①情報紙発行（1） ②25年度の一連の講座、交流会、見学会への参加者を募集 チラシ作成・配布・広報活動</p>
	<p>7月</p>	<p>「ダンボールを使った生ゴミ堆肥作り」講習会の開催</p>
	<p>8月</p>	<p>情報紙発行（2） 広報活動</p>
	<p>9月</p>	<p>堆肥づくりフォローアップ講習会と堆肥の使い方講習会の開催</p>
	<p>11月</p>	<p>消費生活展 出展</p>
	<p>11月</p>	<p>情報紙発行（3） 広報活動</p>
	<p>12月</p>	<p>情報交換会（花の苗の配布）実施</p>
	<p>1月</p>	<p>他市への見学会</p>

役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座、情報交換会、見学会の実施</li> <li>・ 情報紙の発行</li> <li>・ ダンボールコンポスト講座の講師</li> </ul>
	<p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市政だよりへの掲載や自治会へのちらし配布等広報活動の援助</li> <li>・ 他市の生ゴミ堆肥化の事例の情報提供</li> </ul>
他団体との連携	<p>花の苗を作り、配布する予定なので、花作りの会など市内で活動する団体と連携を図りたい。</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24年度実施の講習会参加者での実績は、2ヶ月で一家庭平均17kgの生ゴミの削減となりました。この実績から計算すると、年間では、平均で102kg削減できます。</li> </ul>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

## みんなで地域づくり事業企画書

団体名	四街道ともに築く未来の会
事業名	わくわく市民活動フェスタ事業～子どもも市民～
目的・必要性	<p>＜事業目的＞</p> <p>「子育て日本一」を目指す四街道市にあつて、「子どもも市民」「つなげようひろげようみんなのわ」のテーマのもと、未来を担う子ども達へ親子で楽しむ笑顔づくりを応援します。同時に子ども達の主体性や協調性等を育み、エコ体験、障害者体験などの社会体験や市民活動がどのようなものを学び合う社会教育を目的とします。そして普段異なる分野で異なる目的を持ち幅広い活動を展開している市民活動団体やPTA・自治会等地元組織が自分たちの活動の範囲を超え協働して「わくわく市民活動フェスタ」や「市民活動フォーラム」の開催を通し、自分たちの活動の範囲を超えた市民協働の意識を高め、まちづくりにつながる市民活動活発化の一端とします。</p> <p>【まちづくり】フェスタ会場は5中学校区の中の小学校を輪番で開催します。2014年は大日小学校を予定しています。(承認申請は今後予定)各小学校は地域的コミュニティーの中心として、それぞれの地域的背景、歴史や地域課題を有し、地域の精神的拠り所になっております。基本的なイベント目的・内容での取組と共に、開催小学校区の地域組織や人々と地域課題と解決方法について意見交換を行い主要な取組と致します。コミュニティーの希薄化が進む中、その取組を通じ、地域で密着活動する地域団体と参加者親子の親密度が上がれば次の展開へつながると考えます。</p> <p>【まちづくり】障害のある人について多くの人に関心を持ち、健常者と障害者が出会うなかで「障害者体験をする」など障害者と健常者がともに暮らせるまちづくりへ意識向上の面での一助となることを期待し、障害者団体組織「のぞみの会」等とも連携を図ります。</p> <p>【社会教育】当日は小学校(体育館、校庭、校舎)を会場に「つくってあそぶ」、「あそぶ」、「みる」、「きく」、「エコ体験する」、「生活技術の体験する」、「障害者体験をする」「復興支援を手伝う」、「たべる」などのブースを設けます。各ブースの団体は同時に自分たちの活動のPRも行い子ども達の市民活動の理解へつなげます。学校教育の補完として社会教育の一環とします。</p> <p>【子どもの健全育成】【社会教育】「子どもが主役本部席」を設けます。子どもリクルート、アナウンス、ブース手伝い、靴整理隊等の役割を子どもたちが担います。大人に交じってイベントを運用・活動することにより、充実感や自己有用感を獲得し、主体性、協調性、社会性などの向上につながる社会教育の一環とします。</p> <p>【子どもの健全育成】全体イベントとしては「学校児童による演奏」「地域連盟による演奏・演舞」などで子どもたちや一般市民が参加しての自分で表現する楽しさを味わうと同時に、知り合いが多い会場の参加者たちを盛り上げます。</p> <p>【子どもの健全育成】地域の宝である子ども会がないところが増えて</p>

います。四街道市子ども会育成連合会等とも連携を図りながら、子ども会の育成に協力します。

【市民活動支援】参加団体が自らの活動を紹介すると共に企画～準備～実施過程において市民協働の意識を広げるために多数の市民が参加するフェスタとします。市民活動を広く周知することにより市民活動に参加する市民が増え市民活動を活発化することも目的に実施しています。同時に、普段お互いに接触機会の少ない、多方面にわたって異なる活動をする市民活動団体と地域団体と市民が、顔と顔を合わせた「市民活動フォーラム」を開催します。地域活動活発化と深化につながる一助となることを期待します。

<取組の背景1（市側）>

今回の提案となる事業の前身「わくわく市民フェスタ」は、四街道市の市民活動PR事業の一環として我々市民活動団体からなる実行委員会と四街道市との共催、また教育委員会の後援を受け、8年間、7回の実施となります。市は平成24年度四街道市事業仕分の決定に基づいて事業の終了と負担金の支出中止を決定しました。市としての主な意義と評価、中止理由は次の通りと理解しています。

- 地域づくりを担う主体の活動を奨励している、市民意識、地域課題、行政課題に取り組むことにより、公益性や社会性のある活動を本市では奨励している●このような団体が自らの活動を紹介すると共に市民協働の意識を広げるために多数の市民が参加するフェスタであり、市民活動を広く周知する市民活動に参加する市民が増える市民活動を活発化することを目的に実施している●目的の達成に一定の評価をしている。一方で意義や目的が来場者の方に明確にわかるようにはなっておらず、お祭りの色彩が強いとの一面もある
- 市は単なる市民活動の支援ではなく、協働に軸を置いている。今までの負担金という支援のスタイルというのがあり、これによりはずみ車を回せたのかなという評価はしている●市の自己評価として自主運営が可能であるので行政の役割を整理し、今後は側面的支援を視野に入れる改善をしたら良い。

<取組の背景2（当会側）>

市としての事業中止と負担金支出中止との通告を受けて、当会は平成25年度事業を最後に廃止もやむを得ないとの判断もあった。しかし協議、意見交換を重ね今までの活動で培われた市民協働の芽、多様で広範な市民団体の協働、各中学校区を巡回しての毎年の実施など他市に例をみない創造性、実践を通じて得た地域づくりへの目的達成への意欲などの自負のもと、このイベントをやりぬく経験と実行力を生かし高め、従来のイベントをよりレベルアップし、上述のように目的を明確にし「わくわく市民活動フェスタ」へ再編成して提案するものであります。なお目標・目的に資するような形でより工夫を重ねること、資金等を含め自主性、自立性を高めるなどの改善を実施します。

この事業は四街道市の地域課題に沿ったものであります。今回は市から色々な面で協力をいただいて「サポート型」で推進致したいと

	<p>考えます。今回の事業を成功させて、目標を大きくし、そして、高め得る展開へつなげることのできる「コラボ型」への移行提案も視野に入れて取組みたいと考えています。</p>	
内容	<p>1. わくわく市民活動フェスタ  概要：①大日小学校（承認・調整手続きは今後実施）の体育館・校庭で親子で楽しめるフェスタの実施。実施時期は2014年2月度を予定、今後市内5中学校区内の小学校を輪番で実施を予定する。  ②イベント内で「子どもが主役本部」「子どもの出演」「社会体験」「市民活動学習」など子どもの健全育成と社会教育を重視する。  ③準備過程を通じ各種市民団体と地元活動団体と市民が協働し作業を行い交流を深め、協働意識を広げる。</p> <p>2. 市民活動フォーラム  概要：①四街道文化センター大会議室で、「市民活動フォーラム（(仮題)地域課題と市民活動)」を2014年6月～9月の間に開催します。  ②上記フェスタ開催に向けた実践的な協働を踏まえ、地域課題に連動した市民活動の協働のありかた等をお互いに学び合う。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	2013年 4月	①（プレ）実行委員会の編成 ②フェスタ概要の検討～原案の作成 ③市と小学校への協力要請と小学校施設使用の許可取得
	5月	①地域活動団体への説明と協力要請 ②地域活動家へ実行委員への参加要請 ③フェスタ目的へつなげる具体的実施事項について検討と意見の交換
	6月 ～ 9月	①（拡大）実行委員会の編成と役割分担による具体的事項の検討 ②フェスタイベント、フォーラム実施内容の検討 ③フェスタ実行計画書の作成 ④新規団体等（自治会、社会教育団体、少年スポーツ等団体）へ参加呼びかけと申込の受付 ⑤出展出演団体へ出展出演内容調査・確認 ⑥フォーラムの準備、呼びかけと実施
	10月 ～ 11月	①出展団体申込の集約、出展内容・必要備品等の申込、会場の下見 ②広報内容の検討（ポスター・ちらしの原案、配布内容、広報媒体への接触） ③第1回出展代表者会議の開催（出展者紹介、出展内容・必要備品等の申込、会場の下見）
	12月 ～ 翌1月	①出展内容の最終確認、使用機材、全体作業の役割分担の決定 ③使用機材の作成（横断幕、案内掲示板、マニュアル、イベントツール提供品等） ②出展代表者会議第2回の開催（出展内容の最終確認、全体作業の役割分担の決定）

	2014年 2月	①イベント告知（ポスター、チラシ配布、媒体記事） ②イベントの準備～開催～片付け ③参加者のアンケートの実施 ④収支の確定と内部会計監査の実施
	3月	①実施結果の確認と評価（反省会と報告書の作成） ②市と関係機関への結果報告 ③実行委員会の解散
役割分担の想定	（団体の役割） 実行委員会の編成、イベント計画の作成、関係機関への調整、出展団体の募集、収支予算の作成、実行、報告 具体的イベントの準備、運用、後片付け等具体的な作業と調整	
	（市の役割） 補助金の負担 フェスタ内容と実施プロジェクトへの助言とフォーラムへの助言 対象小学校への施設使用許可と協力への援助 市政だよりへのPRや自治会へのちらし配布、みんなで地域づくりセンター広報等広報関係の援助 市役所、公共施設にある備品でイベント当日の不足品等の提供	
他団体との連携	市内で市民活動を行っている団体に働き掛け、出展と協働運営を実施する。（子ども会育成連合会、障害者団体連合会との連携も含む） 地元小学校のPTA、父母の会、自治会、商工会等へ参画を依頼し、協働運営を実施する。	
期待される成果	①2012年和良比小学校での今回提案イベントの前身となる「わくわく市民フェスタ」は800人の家族の来場実績があり、今回もその程度の来場者を見込み、その参加者が楽しみ、学ぶことができます。 ②イベントの準備から実施に向け約1年をかけて活動する人は、延べ250人・日程度、当日の全体運用で活動する人は200名程度を見込むなど、イベントの開催という共通の目標に向けて多くの異なった分野の人が自分たちの活動の範囲を超えて協働し交流を深めることができます。 ③年1回のフェスタではあるが、市内12小学校へ巡回し開催することにより偏りなく公平に、小学校を中心とする地域に親や近所の人も参加する身近なまちづくり活動につながります。 ④出展団体数約40と見込む市民活動団体の存在と最新の活動の状況を知り市民活動参加のきっかけが作れます。 ⑤フォーラムでは多数（参加者数未定）の方の参加を得て、市民の市民活動、地域活動の深化の一助になります。	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

## みんなで地域づくり事業企画書

団体名	サクラソウフェスタ実行委員会	
事業名	サクラソウフェスタ2013	
目的・必要性	<p>四街道市には、平成13年に市民からの公募で選ばれた市の花であるサクラソウがありますが、サクラソウを核としたイベントは行われていないことと四街道市には若年層が積極的に参加できる市民の一体感が醸成されるイベントがあまりないことから、こうしたイベントが必要ではないかと考え2011年に第1回目、2012年に第2回目を開催し好評を博しました。今回は引き続き第3回目として開催するものです。</p> <p>高齢化が進む四街道市において、若い人たちの集まる都市にすることが、持続可能な都市として四街道の重要な課題と考えています。そのためには、様々なイベントを通して外部からの人を呼び込むことが必要です。ところが人口9万人を超える都市である四街道市においては、観光協会もなく、せっかくたくさんある観光資源を積極的に外に向けてPRすることができていません。</p> <p>サクラソウフェスタにおいては、web・新聞・TV・ラジオなど様々なメディアにPRすることで、四街道市の観光・文化などの良さを感じた外部からの人々を呼び込むことが可能となります。</p> <p>また、地元の高校生など若年層に参加してもらうことで、やがては彼らがこうしたイベントの企画を担う人材として育ててもらうことにつながります。</p>	
内容	<p>日時：平成25年4月21日（日）10:30～16:30  場所：四街道中央公園野球場 ※雨天の場合屋根付き競技場で開催。</p> <p>（内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、ダンス、よさこい（出演者：地元の高校生中心に5組程度）</li> <li>・高校写真部</li> <li>・高校ボランティア部</li> <li>・勾玉教室</li> <li>・牛の乳しぼり</li> <li>・フリーマーケット（出展者：50組）</li> <li>・事務局スタッフ、ボランティア等50名</li> </ul> <p>一般来場者 1,000名</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	2月～3月	チラシ、ポスター等作成・配布準備 参加者の調整

様式第2号（第7条）

	4月	フェスタの開催
役割分担の想定	<p>（団体の役割）                      フェスタの運営（チラシ・ポスター・HP・パンフレット作成、スポンサー集めなど）</p>	
	<p>（市の役割）                      来場者の増加を促す効果的な宣伝、会場確保</p>	
他団体との連携	<p>これまでも他団体（四街道さくらそうの会、プリムラクラブなど）の参加をお願いしてきました。</p>	
期待される成果	<p>市内の他団体が参加してくれることで、イベント自体の盛り上がりが増すとともに、市民の一体感が醸成されることが期待できます。                      参加者 5000 人を目指します。（昨年推定参加者 3000 人）</p>	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	四街道フリーマーケット（略称 四街道フリマ）	
事業名	四街道フリーマーケット	
目的・必要性	①元気なまち②楽しいまち③賑わいのあるまちを目指す。 市民による市民の活動（未活用品、手作り品、その他の販売）のほか、 演芸など発表の場づくりをする。	
内容	1.リサイクルを通して、地域環境に貢献する。 2.市民の手作り品、未活用品、その他多種の販売。 3.その他健全な四街道フリマの発展に関する事。	
スケジュール	時期	具体的な取組
	24年12月 まで	各種必要事項の準備・打合せ（主催者のメンバー）
	25年1月 から	①市民へのお知らせ②出店者の募集（各月常時）
	25年4月 から	各月第4日曜日（9時～15時）に開催
役割分担の想定	（団体の役割） 1.市民へのお知らせ（常時） 2.出店者の募集（常時） 3.開催日の会場準備・片づけと、駐車場（出店者）管理 4.主催者要員の確保（ボランティア等） 5.お客様と出店者の要望等を聞く（常時）	
	（市の役割） 1.場所の提供 2.使用料の減免	
他団体との連携	1.四街道市社会福祉協議会 2.四街道シニアクラブ 3.四街道市日曜朝市 4.学校の吹奏楽部等 5.その他各種団体	
期待される成果	1.各家庭の不用品の販売で、物品のリサイクル。 2.市民手作り品の販売で活気・起業創出。 3.農産物の販売で振興の一端に資する。 4.各種用品の販売で、市民の楽しみ、まちの賑わいが生まれる。 5.学生の部活動発表、市民の各種催しにより集い。	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	栗山みどりの保全事業実行委員会	
事業名	栗山みどりの保全事業	
目的・必要性	市から提案のあった上記事業は、みどりの基本計画の中の一事業であり、これを具体化するために協働し、里山の整備をする。 (詳細は別紙のとおり)	
内容	①自然環境調査を行い、基本計画作成の資料とする。 ②上記調査及び場内整備のための除草・伐竹を行う。 ③水田の維持・管理を行い、環境教育に備える。(詳細は別紙のとおり)	
スケジュール	時期	具体的な取組（平成25年度分として）
	25年4月～ 26年3月	除草、伐竹
	25年4月～ 26年3月	自然環境調査
	25年12月～ 26年3月	基本計画作成
	26年1月～ 3月	水田管理（除草、代掻き、水路掃除）
	全体計画は25～26年度を予定（別紙 スケジュール表のとおり）	
役割分担の想定	<b>（団体の役割）</b> 持っている知識や技術を発揮し、市にない分野を補う。 当事業において、興味があり得意とする分野について協力する。	
	<b>（市の役割）</b> 協働のために必要な施設や備品などの調達及び用地や道路などの市で行うべき基礎的諸作業並びに規模・過酷度・難易度など、作業内容による選別をし、団体と協議のうえ分担する。	
他団体との連携	地権者や関連する区・自治会に参加を呼び掛けるとともに、一般市民を市の広報などで募集する予定。(詳細は別紙のとおり)	
期待される成果	手作りの施設として市民に愛着が湧き、以って市民の協力により良好な維持管理が期待できる。また、整備金額が大幅に抑えられる。 (詳細は別紙のとおり)	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

## (別紙)

### 目的・必要性

市は、市民の皆様身近な子育て・教育・健康・福祉・生活環境などの各分野にわたる36の施策を「未来の街づくり 36のアクション」として計画し、その一施策である「緑のまちづくりの推進」として、市民参加により策定したみどりの基本計画に基づき、同計画推進委員会を始めとする市民との協働により、市民生活に潤いをもたらす里山の保全、自然景観の保持、自然と触れ合う憩いの場の創出などに総合的・一体的に取り組む事業を行なうこととしています。

近年、集落の周囲の斜面にある雑木林やその周囲の谷津田を含めたいわゆる里山が、森林破壊や放置による荒廃、宅地開発などにより本来の里山の環境を失いつつあり、里山の保全は急務だと言われています。

また、今の子どもたちがなかなか経験できない農林体験や、四季を通じて日本の自然、気候、風土を体で感じることでできる環境教育のため、現在は休耕田となり、人が関与しなくなった結果荒れてしまった田を水田として復旧させ、その後の維持・管理を行います。

市と市民が協働で、この事業に取り組み、完成させるためには、植生などの調査を始め、その結果を基にした基本計画の作成、計画の実施段階においては散策路整備などの各段階で各団体の持っている知識を発揮し、よりよい里山の整備をしていきます。

### 内容

市の計画は、市街地近郊の良好な樹林、里山、自然景観などが一体的に存在する事業用地として栗山地先を選定、借地し、「栗山みどりの保全事業」として進めるもので、事業区域は、約5ヘクタールあります。

整備内容について、市は、市で行うべき赤道や駐車場の整備、市民の手では過酷な休耕田の復元などの整備を行ない、市民は、自然植生調査や基本計画の作成等のソフト面の作業及び調査に伴う除草・伐竹、休耕田復元後の水田管理などの整備を行って戴きます。

この事業では、極力現況の良好な自然を生かし、手作りで整備を行います。具体的には、

- ①自然環境調査を行い、保護区域・活用区域別の区割りの資料とし、基本計画の作成を行う。
- ②上記調査及び場内整備のための除草、伐竹を行う。
- ③水田の維持・管理を行い、環境教育に備える。 というものであり、詳細は別紙「栗山みどりの保全事業スケジュール」のとおりです。

## (別紙)

### 他団体との連携

事業用地の地権者や関連する栗山郷区及び馬洗区、近隣のつくし座自治会及び県営栗山団地自治会に参加を呼びかけるとともに、一般市民を市の広報紙やホームページで募集する予定です。また、みどりの基本計画推進委員会に所属する総合公園の植生調査の会、特定非営利活動法人四街道メダカの会、四街道里山の会、四街道フォレスト、四街道水辺の会などが中心となって活動を行います。

### 期待される効果

①自然環境調査・基本計画の作成

②調査や場内整備のための除草・伐竹

③水田の維持・管理

・・・の作業を外注した場合、①だけでも百万単位になると思われ、市にとって費用面で大きな効果となる。また、費用面のみでなく、市民の手作りによる施設として地域や市民の方々に愛着が生まれ、良好な運営、維持・管理が期待できる。この結果、**総体的に・・・**

緑地の保全

自然環境・自然景観の保持

里山の修復

生物多様性の支援

自然と触れ合う憩いの場の創出

情操教育の支援

環境学習の支援 など

《自然を題材にしたあらゆる活動の場》として、幅広く市民の方々に利用して戴ける。



## みんなで地域づくり事業企画書

団 体 名	よつグルメ研究会	
事 業 名	つくっちゃおう！よつかいどうグルメ	
目的・必要性	<p>1 つくっちゃおう四街道のご当地グルメへの参加 平成24年度に市みんなで地域づくりセンターが主催した「つくっちゃおう四街道のご当地グルメ」に参加。4回の検討会を経て、グルメにするべき製品や材料の方向性が明確になりました。最後の話し合いで、今後も調査・研究・検討を進めるべきとの意見でまとめ、『よつグルメ研究会』が立ち上がりました。</p> <p>2 市民への問いかけと各店舗の協力のために よつグルメ研究会において、今後どのような調査・研究・検討を行うべきかですが、市民の認知と商店の協力が重要であることが確認されました。 市民への問いかけと認知を得るためには、食べる事が出来る店を探すこと、イベントでの盛り上げ、祭り会場で紹介、などが効果的です。また、各店舗の理解協力を得るためには、レシピを限定しないこと、食材の安定供給、加工やアレンジしやすさが欠かせません。</p> <p>3 鹿放パンと四街道ガレットを柱に ご当地グルメの条件は、そこに根付いている（いた）もの、地場産のものを加工したもの、シンボルやイメージとの関連などがあげられます。 当会では、鹿放ヶ丘で生産された小麦を使い開拓時代に製造販売していた「鹿放パン」と、地場産のそば粉と旬の素材等を使いルボン大尉も好んだと言われる「ガレット」を柱とし、ご当地グルメとして普及を視野に活動を展開してまいります。</p> <p>4 24年度における研究の進め方 ご当地グルメ研究会が立ち上がる前提で、市では平成24年度予算として講師料と需用費を用意していただいています。今後、25年度に向けた勉強会を予定しています。</p>	
内 容	<p>よつグルメ研究会の事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商品開発や販売促進ノウハウの調査研究（勉強会開催）</li> <li>試作会、試食会の開催</li> <li>鹿放パンの試作と試験販売</li> <li>四街道ガレットの試作と試験販売</li> <li>市内各店舗との共同企画を進める</li> <li>学校給食栄養士さんとのコラボ企画を進める</li> <li>商品（土産品・軽食・惣菜）サンプル、パッケージづくり</li> <li>のぼり等の作成</li> <li>朝市や産業祭等での試作販売や広報啓発</li> </ol>	
スケジュール	時 期	具体的な取組
	25年 4月	試作会（4/11）
	25年 5月	勉強会（5/9） 栄養士さんとの交流会

様式第2号（第7条）

	25年 6月	試作会（6/13） パン店との交流会
	25年 7月	勉強会（7/11） 飲食店との交流会
	25年 9月	試作会（9/12）
	25年10月	試作会（10/10）
	25年11月	勉強会（11/14） 商標登録申請
	25年12月	のぼり旗の作成
	26年 2月	試作会（2/13） 「よつグルメの報告会」を兼ねて
	26年 3月	商品サンプル、パッケージ製作と報告書作成
役割分担の想定	（団体の役割） ・自主的な活動の実施 ・グルメの研究と試作品づくり ・鹿放パン或いは四街道ガレットを商標登録する	
	（市の役割） ・市の投げかけ（36プランによる内容）による事業のため、補助率を10割にさせていただきたい。 ・試作会をわろうべの里で行いたいのので、日程を抑えてさせていただきたい。（9時から15時までの間） ・勉強会や交流会の際、みんなで地域づくりセンター又は市役所会議室を使用させていただきたい。 ・グルメの浸透の為に市政だよりで研究経過を広報させていただきたい。 ・当会が商標登録申請することを認めていただきたい。	
他団体との連携	四街道市商工会 四街道栄養士会 鹿放ヶ丘区 吉岡分校プロジェクト 日替わりシェフの店さくらそう	
期待される成果	四街道土産が増える。 グルメ販売店舗へ市民が買物に来る 市内飲食店でお客が増える 四街道が内外に知れ渡る	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される成果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>四街道こども防災クラブ</p>
<p>事業名</p>	<p>四街道こども防災クラブのスタートアップ</p>
<p>目的・必要性</p>	<p>私たちは、幾度となく大きな震災を経験し、地域での自主防災の必要性を身近に感じました。</p> <p>現在、四街道市内には消防団 18 個分団が組織され、災害時に備えています。しかし現状は、消防団と消防署員との違いも知られていなかったり、消防団の存在さえ認知されていなかったりします。</p> <p>団が抱える課題としては、現役世代の団員の充足率が低いことです。いざという時の備えが不足しがちですし、地域とのつながりもまだまだ薄いと感じざるを得ません。</p> <p>消防団に携わる身としては、このような現状を思いあぐねている訳にもいきませんので、今年度、市内 P T A と連携協力し、地域で活躍する消防団を知ってもらうことと、地域防災を考える機会をつくるために、中央小、四和小において P T A バザー開催時にスタンプラリー形式で子供たちに放水体験や応急処置などを体験してもらいつつ消防団の存在や活動意義を啓発する試みを実施いたしました。この取り組みは、多方面から関心を呼び、日赤奉仕団の協力も頂くことができましたし、子どもたちからは楽しみながら消防や救急のことが学べたという声が寄せられるとともに、何より嬉しいことに保護者が入団して頂くという実績にもつながりました。</p> <p>今回の中央小、四和小の取り組みを契機に、小学生の頃から消防・防災に関する実体験を積み重ねることの有意義さを実感するとともに、関連諸団体との連携、地域住民への消防団の活動意義の普及啓発、これらを有機的な連携のもとに進めてゆくことの大切さを実感致しました。</p> <p>特に、先の震災では、避難所の子どもたちが自主的主体的にボランティアをする姿がクローズアップされました。子どもたちも彼らなりに問題意識をもち行動することで、周りの大人たちが元気になれるという効果があると報道されました。四街道でも有事の際に自主的に活動できるリーダーを養成する必要があります。</p> <p>そこで、次世代の消防団員を育成することを目指すとともに、地域の絆を強めるためにも、こども防災クラブを立上げます。管轄地域の消防分団との連携を図り、地域での自主防災の強化と普及を行い、こどもの頃から、防災知識と技能を身に付け、非常時に冷静に行動できる人を一人でも多く育成したいと考えます。</p>

<p>内容</p>	<p>① こども防災クラブを20名募集（市内全域を対象とする）。消防団式の活動服・防火服風コートをデザイン作製し、着衣することで楽しみながらクラブに参加し、消防団・防災活動に関心を持ってもらう。</p> <p>※ 活動の中心は、小学生全学年とするが、卒業後（中高生）もジュニアリーダーとして、後進の育成に当たることで、自らのスキルアップに繋げる体制をとる。また、未就学児（低学年児童含む）の参加も、見学などの形をとり、安全確保に努めた上で認める。なお、男女の区別はしない。</p> <p>初年度の行事は2～3回を予定しているが、実技、座学などの講習会は複数回予定している。</p> <p>※ 火災予防を目的とする「幼年・少年消防クラブ」（日本防火協会事業）としては位置付けず、あくまでも災害時に冷静沈着に自助共助ができる人間形成を目的とし、防災や緊急時に対する知識向上および、スキルアップができる実用的で柔軟な活動を目指していく。</p> <p>② 救急時のケガへの対応、負傷者搬送法や、災害時の野外烹炊（自炊法）などをゲームやデイキャンプを通して楽しみながら学ぶ機会を作る。</p> <p>③ 講習や体験は親子でも参加できる方式とし、保護者世代にも消防団への関心を持ってもらう。</p> <p>④ 消防操法を模した『こども消防操法』の演技指導。（クラブの花形と位置づけ、参加意欲を一層向上させる）</p> <p>※ 『こども消防操法』を行うにあたり、消防署車輛および、消防団車輛は、緊急時に即応するためこども操法の練習などに借用することは不可能であるため、独自の車輛を保有することが必要である。</p> <p>車輛は市内協力事業所からの寄贈により既に確保しているが、使用上の安全確保、保守管理のために、車輛の保守点検および整備は必須事項であり、当面の修繕、維持費用を別途予算に反映した。</p> <p>今後、車輛の整備や保管場所などにかかる費用は、市内事業所に協力を求めると共に、広く寄付などを募り、団体独自で充当できるように努めていく。</p> <p>なお、現時点で、車輛の寄贈は京葉自動車工業、整備協力は四街道自動車、保管場所提供はあさひ輪業。以上、市内3事業所が既に協力の意思表示をしているが、部品代、油脂類、自動車保険料等にかかる費用の協力体制が整うまで猶予が必要と考える。</p> <p>⑤ 消防団有志で当活動を担い、消防本部・署の指導助言を頂きながら自治会、自主防災組織、日赤奉仕団、PTAなど関係団体と連携協働体制をとる。</p> <p>※消防団（分団）との連携方法について</p>
-----------	---

	<p>団員有志による活動協力をするが、参加に際しては、あくまでも、個人的ボランティア参加と位置付け、消防団員としての身分での参加はしない。したがって、活動服、消防団車輛、資機材の使用を制限するものとする。なお、必要に応じて、消防本部総務課を通して分団出動依頼書を作成し、出動依頼する場合も想定している。</p> <p>※教育委員会（学校）との直接の連携について</p> <p>今後、視野に入れて活動していくが、市内、各小中高校には、クラブ員募集のPRや、バザー、文化祭の場における活動内容の披露を依頼する。</p> <p>⑥ 活動服づくりは、手芸や洋裁の得意な地域のお母さん方の集まりで担っていただくなど、幅広い関係づくりを行う。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4・5月	クラブスタッフとの打合せと、こども防災クラブメンバーの募集準備
	6・7月	案内作成、配布、防災服の製作
	8・9月	こども防災クラブ発足式・開講
	10・11月	放水体験、救急講習、野外烹炊などを実施
	12・1月	まとめ・報告書作成
	2・3月	
役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <p>地域のつながりを活かした、運営者の募集と事業企画実施</p> <p>P T Aや小中学校のおやじの会、子ども会、消防団や自治防災組織、日赤奉仕団、消防 OB、自衛隊 OB、地域の婦人会とのつながりを活かシネットワークづくりを行う。</p>	
	<p>（市の役割）</p> <p>消防本部総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点において、当事業は消防団の関連事業ではない。したがって、消防本部および消防団への協力依頼は、消防本部総務課を通して行う。</li> <li>・今後子ども消防団として取り組みにつなげて頂くよう配慮願いたい。</li> </ul> <p>※ 可能な限り柔軟な対応、協力体制を確立してゆく方向で、今後当事業との連携体制の向上に努めていただきたい。</p>	

	<p>・出初式、操法大会における『こども消防操法』の演技披露の機会を設けていただきたい。</p> <p>※予定している『こども消防操法』が確立した際、演技披露の場を設けていただきたい。</p> <p>危機管理室</p> <p>市防災訓練や自治会の防災訓練の際に、当事業の参加機会（こどもたちによる炊き出し訓練の場やこども消防操法の演技披露）を可能な限りで構わないので設けていただきたい。</p> <p>また、こどもたち向けの指導の際に使用する、防災行政上の情報提供（ハザードマップ等）を求めたい。</p>
<p><b>他団体との連携</b></p>	<p>P T A、おやじの会、子供会、自治防災組織、消防分団、消防本部、日赤奉仕団、自衛隊、ほか</p>
<p><b>期待される成果</b></p>	<p>子どもの頃からの防災体験による防災スキルアップと将来にわたる消防団員の育成。</p> <p>子どもを通して親への消防団の周知と加入促進、助け合い精神の醸成。消防団員の慢性不足の解消。目標10名。</p> <p>説明、指導に当たることにより、現役消防団員自身のスキルアップ。</p> <p>地域の自助、共助意識の向上、コミュニケーションの向上。</p>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

## みんなで地域づくり事業企画書

団体名	おひさまおひさんぽ実行委員会	
事業名	おひさまおひさんぽ（おひさんぽ会）開催とマップのウェブ更新	
目的・必要性	<p>24年度はおひさんぽマップ作製を通し、多くの方との出会いがあり、地域の自然にとどまらず歴史や商店街などの地域資源も知ることができました。また作製を通して、子育て中の母親や父親との共に作業することで同じ世代の交流、調査によって異分野、異年齢の繋がりも生まれました。</p> <p>そして、マップをもとに開催したおさんぽ会では、四街道の自然や歴史の素晴らしさを参加者と共に共有し、さんぽを通し他団体との交流を図りました。</p> <p>25年度は作製されたおひさんぽマップをもとに、さらにおさんぽ会の機会を増やし、多くの市民が市内の自然のすばらしさや、街の情報を実際に体験し知る機会を作ります。また、野外体験に関心のない人や子育てにつらさを抱える親にも、このような機会を知ってもらうことも必要とされています。</p> <p>そこでの子育て世代の交流が生まれ、協力団体との連携も図ることも目的とします。</p> <p>マップについては、ウェブ上での更新が有効であるためホームページの開設も必要とされています。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップをもとにおさんぽ、散策などを年に7回ほど実施。</li> <li>・開催日は平日だけでなく、週末も設定し幼稚園児や小学生も参加しやすい設定をする。</li> <li>・広報についてはチラシ、FBやmixiなどのSNSを活用し、子育て世代に情報が届きやすいようする。</li> <li>・おひさまおひさんぽのホームページを開設、情報更新を行う。</li> <li>・マップ発行記念イベントとして、映画「生まれる」を上映。子育て世代に地域で子どもを育て合うことに関心を持ってもらい、ネットワークづくりを行う。</li> </ul>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月	実行委員会開催 実施準備、広報
	5月～11月	毎月1回のおひさんぽ開催 開催は平日限らず、週末も設定、小学生やお父さんたちの参加も可能にしていく。
	6月	ホームページの開催、随時情報更新を行う
	7月	マップ発行記念イベントとして映画「生まれる」上映 監督に講演として、子どもいのちの尊さや、地域の繋がりで子どもを育てて行くことの大切さもお聞きし、子育て世代のネットワーク作りとする。

役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <p>おさんぽ会の企画・運営 ホームページの開設 映画会上映の準備と実施</p>
	<p>（市の役割）</p> <p>こども保育課・・・子育て世代の交流や情報交換の場として、案内の 広報、情報提供など</p>
他団体との連携	<p>四街道自然同好会、歴史研究会、ウォーキング協会（実施協力） 子育て支援センター、幼稚園、小学校（参加者呼びかけ、広報、情報 提供協力等） みんなで地域づくりセンター（コーディネート、広報協力） 市内外子どもに関わる市民団体（こどもネット、自主保育、地域子ど も教室、プレーパーク）</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道の自然のよさや魅力を体験し知ること、子育てしやすい街 づくりの一步となる。</li> <li>・子育て世代のネットワーク作りができる。</li> <li>・他団体と協力とおひさんぽ会を通して、異世代交流を図る。</li> <li>・ホームページを開設することで、マップの新しい情報を随時更新で き、広く参加者やスタッフ募集をすることができる。</li> <li>・おさんぽ会1回の参加者親子15組から20組を予定。子ども15人、 大人15人。映画参加者100人を予定</li> </ul>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>にこにこ文庫さとの子会</p>	
<p>事業名</p>	<p>にこにこ文庫開設</p>	
<p>目的・必要性</p>	<p>四街道市内で育つ子ども達とその親達は家族としては核家族の割合が71パーセントで、全国的に見ても核家族の割合が多い状況です。市内の子育てを支援するセンターも市内に5か所あるものの、多くの子ども達を受け入れることはできず、孤立化する親子も多くいます。相談したくても歩いていける場所に気軽に参加できる場がないことは、子どもの育ちにとっても大きく影響を与えるものとなります。そこで、家庭の蔵書と空き部屋を活用し、地域での乳幼児親子や児童が利用できる文庫開設を行います。絵本に親しみ親子での豊かな時間を提供することができ、合わせて地域での親子の居場所、子育ての悩みを相談したり、情報交換する場が作られます。そこには公共の施設では提供できない暖かな地域のサポートによるつながりも生まれ、日常の暮らしの中でのネットワークが広がっていきます。一人で子育てするのではなく、地域で子ども達を育てていくという地域の意識も向上すると共に、この文庫をきっかけとして市内に子ども達と親子の集う場が広がっていくことも狙いとしています。</p>	
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き部屋を利用した家庭文庫の準備、備品整備</li> <li>・ スタッフの募集と文庫案内</li> <li>・ 週1回の文庫開放、時間は10時～15時</li> <li>・ 徐々に回数を増やし、放課後の開放も予定</li> <li>・ 利用料は無料</li> <li>・ 子ども達を遊ばせながらのママ達のサロンの学びの場も開催</li> <li>・ 子育てサロンや相談など機会を作り子育て支援と母親育ても合わせて行う。</li> </ul>	
<p>スケジュール</p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>4月</p>	<p>文庫開設のため部屋の整備・スタッフ募集</p>
	<p>5月</p>	<p>案内の作成と広報</p>
	<p>6月～</p>	<p>にこにこ文庫オープン 週1回10時～15時</p>
	<p>8月</p>	<p>夏休み時、小学生向けの文庫開放</p>
	<p>10月</p>	<p>文庫開設日を週1回から2回目に拡大</p>

	3月	事業まとめと次年度の準備
役割分担の想定	<p>（団体の役割） 開設準備、広報、スタッフ研修、文庫開設</p>	
	<p>（市の役割） こども保育課・家庭支援課・・・乳幼児親子への文庫の案内チラシ配架 社会教育課・・・小学校への文庫開設の紹介 図書館・・・放課後の小学生への案内・周知への理解・書籍の団体貸出し 開催サポート</p>	
他団体との連携	<p>子ども会連合会・自治会・PTA・・・参加者の呼びかけ、スタッフ協力 絵本サークル・・・本の選定・読み聞かせ協力 サンデー木工倶楽部木楽会・・・本棚の作成 みんなで地域づくりセンター・・・他団体・地域との連携</p>	
期待される成果	<p>地域での絵本を通じた居場所が開設されることで、身近なつながりの中で子育てできる環境づくりが行われる。子ども達の絵本への興味を引き出し、親子でほっとしながら絵本を楽しむ時間を提供することで、親子のつながりや地域との連携の機会を得ることができる。 また地域の大人の役割を再確認し、子ども達を共に育む意識を育て、他地域へと波及していき、子育てを楽しめるまちを作ることができる。 文庫参加者は毎回20人～25人 関わる団体は10団体を想定している。</p>	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>こども記者クラブ</p>
<p>事業名</p>	<p>こどもの視点で地域づくり～こどもたちと共につくるまちのメディア～</p>
<p>目的・必要性</p>	<p>地域づくりにおいて、「今の地域の様子を見つめなおす」ことは基本であると同時にとても重要なプロセスです。しかし、実際にはその主体を多くの場合大人が担い、大人の視点による地域づくりが進んでしまっています。</p> <p>こども記者クラブでは、「こどもがつくるまちのメディア」として、こどもの視点を取り入れ、「こどもたちと共につくるまちのメディア」として、大人もこどもも一緒になって地域を見つめなおし、情報を発信していくことを目的としています。</p>
<p>内容</p>	<p><b>【対象】</b> 四街道市内の小中学生約 30 名</p> <p><b>【活動】</b></p> <p>①記事づくり（月 2 回 1.5 時間／回） &lt;活動場所：みんなで地域づくりセンター、文化センター会議室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材にあたっての準備、計画等</li> <li>・取材した内容をもとにした記事づくり</li> <li>・こどものつくった記事、活動の状況等の共有</li> <li>・展示発表等に向けた企画・準備</li> </ul> <p>②地域の施設やイベント取材（随時） &lt;取材依頼等に応じてこども記者有志による取材活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ及び保護者の同行のもと、多方面への取材活動</li> </ul> <p>③地域の学生等との連携（年 4 回） &lt;大学生等を講師に招いての活動に生きる体験的学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの使い方や取材の仕方等の学習</li> </ul> <p>④記事の発表・展示（年 2 回） &lt;会場：市役所、文化センター、市内施設等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども記者作成の手書きの記事等の展示</li> <li>・来場者へのこどもによる案内、プレゼンテーション等</li> <li>・アンケート実施によるフィードバック</li> </ul> <p>⑤こども記者クラブ通信発行（年 4 回 2 ページ／回） &lt;市政だより紙面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども記者クラブの地域への広報、活動報告</li> <li>・こどもの記事等の発信</li> </ul>

	<p>⑥こども記者クラブホームページ、facebook等による情報発信（随時）          &lt;こども記者作成記事の掲載、スタッフブログ等による情報発信&gt;</p> <p>⑦「つづきジュニア編集局」（横浜）との交流・連携          &lt;主催：NPO 法人ミニシティ・プラス、サポート：東京都市大学中村環境情報学部中村研究室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を通じた他地域団体の活動の様子の参観</li> <li>・新しい視点や他地域における活動の学び、体験</li> <li>・記者クラブ活動の発展に繋がる、運営の工夫やアイディアの共有</li> </ul> <p><b>【体制】</b>          学生及び社会人ボランティアによる支援</p> <p><b>【活動場所】</b>          四街道市文化センター会議室、みんなで地域づくりセンター、地域イベント会場等</p> <p><b>【資金調達】</b>          こども記者からの会費、賛助会員の募集、協賛企業からの広告費（平成24年度実績10社、約10万円）等</p>	
スケジュール	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>平成25年3月</p>	<p>こども記者募集（市政だより・HP・facebook等）</p>
	<p>平成25年8月 平成26年2月</p>	<p>こども記者作成の記事の発表、展示（市役所、文化センター・市内施設等）</p>
	<p>平成25年 5,8,11月 平成26年2月</p>	<p>四街道こども記者クラブ通信の発行 （年4回予定 市政だより折り込み）</p>
	<p>2回/月</p>	<p>記事の作成、取材への準備等</p>
	<p>時期未定</p>	<p>つづきジュニア編集局と交流・連携</p>
役割分担の想定	<p><b>（団体の役割）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども記者クラブの運営</li> <li>・こども記者による地域情報の発信</li> </ul>	
	<p><b>（市の役割）</b>  <b>（政策推進課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域情報の提供</li> <li>・活動、打ち合わせ場所の提供</li> <li>・啓発支援（広報等）</li> </ul> <p><b>（秘書広報課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政だより紙面の提供（2ページ/回 年4回発行）</li> </ul>	

<p>他団体との連携</p>	<p>①みんなで地域づくりセンター・・・「子ども記者育成講座」をきっかけとした本活動のサポート（活動場所の提供、相談・コーディネート）</p> <p>②市内小中学校・・・資料配布・掲示等</p> <p>③施設管理公社・・・発表会場の提供</p> <p>④各地域団体（サクラソウフェスタ実行委員会、どんぐりの森プレーパーク、共栄フリーマーケット等）・・・イベント取材等</p> <p>⑤つづきジュニア編集局・・・交流、連携</p> <p>⑥地域情報ポータルサイト「よつぼ」・・・情報交換等</p>
<p>期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの地域づくりへの参加機会が増え、そこでの取材活動を通して、こどもの地域づくりに対する意識や視点が変化する。</li> <li>・こどもらしい視点によって作られた地域づくりに関する記事から、こどもも大人も新しい意識で地域を見つめなおし、改めて地域づくりへの意識を持つきっかけが生まれる。</li> <li>・他の地域で行われている地域づくり活動の様子を知ることにより、相互に視野を広げ、新鮮な視点で地域づくりを考えることができる。</li> <li>・他の地域の様子を知ることにより、自分たちの住む地域の良い所、課題となるところがより明確になり、より具体的に地域の魅力や問題点を捉え、考えることができる。</li> <li>・他の地域で同じような活動を行なっている団体との交流を通し、同年代のこどもたちからの新しい刺激を受け、自身の活動をより良いものにすると同時に、運営するスタッフも情報を交換しながら、記者クラブの地域づくり活動をより豊かなものにする事ができる。</li> <li>・学年や学校、年齢の枠を越えた活動を通し、こどもやスタッフ、相互の関わりあいや協力のなかで、こどもも大人も豊かな学びの中で地域づくりに参加することができる。</li> <li>・こどもが様々な場所へ行き、様々な立場の大人と関わりながら取材を行う中で、社会教育・キャリア教育としてもこどもに豊かな学びを与えることができる。</li> </ul>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p><b>団体名</b></p>	<p>鷹の台を元気にする会</p>
<p><b>事業名</b></p>	<p>地域がつながるコミュニティスペースをつくろう</p>
<p><b>目的・必要性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鷹の台地区は四街道市街の中心地区から離れているため、児童館や公民館などの公共施設がない。</li> <li>・地域が元気になるためには住民同士のつながりが不可欠。</li> <li>・コミュニティスペースを設置運営することで、地域のママ達繋がることで、地域のシニアや子ども達ともつながっていく。</li> <li>・企画、運営に係わりながらママ達の社会復帰の訓練の場にする</li> <li>・子ども達の居場所をつくることにより、地域の子どもの地域で育てる意識を共有し、地域のコミュニティの基盤を作る</li> <li>・特技をもったシニアに先生になってもらい地域の子どものに教えてもらうことにより、世代間交流の機会をつくり顔の見える関係づくりをおこなう。</li> </ul>
<p><b>内容</b></p>	<p><b>【対象】</b> 鷹の台地区の住民</p> <p><b>【活動】</b></p> <p>① 子育て中の母親の交流と情報交換と学びの場の運営（昼間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の開催を目指す</li> <li>・プログラム例             <ul style="list-style-type: none"> <li>おしゃべり cafe（母親同士の交流）月6回</li> <li>プチ講座の開催（テーマを決めての勉強会、講習会）月2回</li> <li>子育て相談会（保健師、保育士などによる相談会）年3回</li> <li>市政だよりなどを置き、市内情報の共有</li> </ul> </li> </ul> <p>② 放課後の子ども達の居場所の運営（放課後）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回、放課後にこども達の居場所として開放</li> <li>・地域のシニアと交流（月2回）</li> <li>・民生委員、児童委員、臨床心理士など地域に係わる多様な主体と連携し、地域のこども達を地域でみまもる。</li> </ul> <p>③ 鷹の台塾開講（夏休み）</p> <p>時期 夏休み期間中 5日前後を予定          対象 吉岡小の子ども達          内容 学校の授業の補習          地域の住民を先生としての課外講座          体制 補習は地域の大学生を中心サポートにはいってもらい          課外講座は地域の住民が先生          吉岡小学校の先生方にも協力を呼びかける</p> <p>④ 鷹の台こども子育て会議開催</p> <p>時期 6月・11月          対象 鷹の台地区の住民（小中高生、保護者、シニア）          内容 鷹の台地区の小学生からシニアまで同じテーブルについて、子ども達にとって過ごしやすい地域とはどんな地域か、鷹の台地区の子育て環境について話し合う。</p> <p><b>【体制】</b>          子育て中の母親を中心とした企画運営          また、自治会役員、保護者、シニアなど多様な主体が活動をサポート</p>

	<b>【活動場所】</b> 鷹の台自治会館	
スケジュール	時期	具体的な取り組み
	平成25年 1月	実行委員会の立上げ 実行委員会による運営会議 年間計画作成
	2月	実行委員会による運営会議 子ども向け講座の企画会議 子育て講座の企画会議
	3月	実行委員会による運営会議 開設準備 先進他地区の見学による研修
	4月	コミュニティスペース「おうち+」（仮称）オープン
	4月～ 3月	運営会議〈月1回〉 週2日ペースで開所（夏期 10時～17時 冬期 10時～16時） 子育て講座 月1回開催 子ども向け講座 月1回開催
	6月	鷹の台子ども子育て会議の開催
	7月～ 8月	夏休み「鷹の台塾」（仮称）の開催 主に鷹の台地区の小学生を中心に補習と体験学習
	11月	鷹の台子ども子育て会議の開催
役割分担の想定	（団体の役割） コミュニティスペースの運営 地域の人材発掘、人材育成	
	（市の役割） こども保育課 ・子育て情報の提供 〈随時〉 ・広報 健康増進課 ・保健師、歯科衛生士の派遣による講座と相談 〈年6回〉	
他団体との連携	■吉岡小学校 ・子ども達への広報 ・学校施設の開放  ■託児支援サークル ベネヴォル（吉岡小学校支援ボランティア） ・託児の応援  ■民生委員、児童委員 ・見守り協力  ■みんなで地域づくりセンター ・広報 ・パソコンの操作や広報講座など団体サポート	

	<p>■社会福祉協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協主催の「ちびっこハウス」（第2第4金曜日鷹の台自治会館で開催）と情報交換による利用者の紹介と広報</li> </ul>
<p>期待される成果</p>	<p>① 子育て世代によるコミュニティスペースの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の母親同士の交流による子育ての孤立化の予防</li> <li>・プチ講座などを通じて、個々の持つ知識や技術をシェアしあう</li> <li>・運営を通じて、母親の社会復帰に向けての学びと活動の場となる</li> <li>・特技を持った母親が互いに教えあい学び合うことを通し、地域で活躍できるきっかけをつくる</li> </ul> <p>② 放課後の子ども達の居場所の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館などが無いので、子どもが集まれる場づくり</li> <li>・シニア主催講座による多世代交流（昔遊び講座など）</li> <li>・放課後のこどもの居場所運営を通してのコミュニティづくり</li> <li>・地域のこどもを地域で見守ることによる地域の間関係強化</li> </ul> <p>③ 鷹の台塾開校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子ども達への学習機会の提供</li> <li>・地域の小学生と大学生の交流</li> <li>・特別講座開催による地域の人材発掘</li> </ul> <p>④ 鷹の台子ども子育て会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多世代交流が盛んになる</li> <li>・地域の問題や課題の情報共有</li> <li>・地域活動への参加のきっかけづくり</li> <li>・定期的集まることで、顔の見える関係づくり</li> </ul> <p>以上4つの事業運営を行うことを通じて、母親の社会復帰に向けての学びと活動の場となる。 母親はもちろん、子ども、シニアまで地域で活躍できるきっかけをつくる</p> <p>〈利用者数予測〉          地域の子ども達 年間利用者 1回8名×週2回×12ヶ月=768人          地域の子育て中の母親 年間利用者 1回5人 ×週2回 ×12ヶ月=480人          地域のシニア 年間利用者 1回5人×月4回×12ヶ月 =240人</p>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p><b>団体名</b></p>	<p>四街道検定実行委員会</p>	
<p><b>事業名</b></p>	<p>四街道検定</p>	
<p><b>目的・必要性</b></p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道市内外の子どもたちが四街道について知る</li> <li>・子どもたちが本事業を受験することで、四街道について学び、より知識を深めることで郷土について深く理解し、故郷「四街道」として誇りを持つ</li> <li>・ゲーム感覚で実施することにより学校で学んだ知識の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>内容</b></p>	<p><b>【対象】</b> 市内外の小学生</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>①高校生が検定の内容について研究する (研究方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各署に問合せ、ヒアリング、取材を行う。</li> <li>・文献研究</li> </ul> <p>②四街道検定の実施 (実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の小学校で4年生に実施</li> <li>・問題を配布し、各学校の都合の良い時間に実施してもらい後日解答用紙を回収し、事務局で採点后結果を通知</li> <li>・級の認定はこの四街道検定実行委員会とする。併せて市長または教育長の認定をもらう</li> </ul> <p>③活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道検定は各小学校に配り活用</li> <li>・各種イベント等での利用</li> </ul>	
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>4月</p>	<p>メンバー募集 小学校で配られた社会科副読本「わたしたちの四街道」の確認と研究</p>
	<p>5月</p>	<p>内容の検討 取材の計画作成</p>
	<p>6月</p>	<p>ヒアリング、取材</p>
	<p>7月</p>	<p>ヒアリング、取材 検定内容を決定 まとめにむけての作業</p>
	<p>8月</p>	<p>検定シート作成</p>
	<p>10月～ 11月</p>	<p>各小学校にて四街道検定実施 実施後、解答用紙を回収</p>
	<p>1月中</p>	<p>市内各小学校へ結果を通知（認定証送付） 内容検証</p>

役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道検定作成</li> <li>・四街道検定企画</li> </ul>
	<p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の提供</li> <li>・関係機関との協力連携調整（市内各小学校、教育委員会等）</li> <li>・市政だより等を活用した広報活動</li> <li>・四街道検定実施会場の提供</li> </ul>
他団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで地域づくりセンター（相談・コーディネート）</li> <li>・市内小学校（四街道検定の配布、実施協力）</li> </ul>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定をきっかけに、四街道について深く理解し、郷土への愛着をもつ小学生が増える。（検定受験者数 約 800 人）</li> <li>・四街道出身の中・高校生、又は通学している中・高校生が中心となつてつくることで、学校や学年を超えた関係が地域の中で育つ</li> <li>・この企画に応募した子どもたち（中高生）が主体となつて開催することで、若い世代でも地域づくりの主体となれる自治体だということ内外にアピールできる。</li> </ul>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p><b>団体名</b></p>	<p>四街道こども探検隊実行委員会</p>	
<p><b>事業名</b></p>	<p>四街道を探検しよう ナイトハイクと森キャンプ</p>	
<p><b>目的・必要性</b></p>	<p>四街道に住んでいる子ども達はとても自然が多くて幸せだと思います。しかし、どこにいったら森があるのか、川で遊べるのか、地域にはどんな不思議があるのか全部はわかりません。 そこで、子ども企画で四街道の市内を探検する企画を作りました。子どもが行ってみたい場所や、やってみたいことを、子どもたちが準備から実施までを進めていきます。 時には大人に助けってもらったり、地域の人の協力も必要かもしれませんが、子どもが友達の枠を超えて協力したり、話し合ったり、そして失敗しながらも一つのことを成し遂げることで、達成感と自己肯定感が得られると考えています。</p>	
<p><b>内容</b></p>	<p>(内容) 1.四街道子ども探検隊の募集と結成 2.メンバーは実行委員としてナイトハイクとキャンプの準備 3.夏休みの平日、栗山の農村広場（案）で食事作りとキャンプ 夜は栗山小鳥の森までナイトハイクとカブトムシ探し グループごとに分かれて、肝試しやホテル観察もアクティビティとして探検する。 (運営・協力体制等) 実行委員 5～10名、募集参加者 20名、地域の協力者 3～5名</p>	
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>4・5月</p>	<p>実行委員募集、コースの選定とキャンプの内容の検討</p>
	<p>6・7月</p>	<p>実行委員会開催（4回）、地域の方への協力依頼</p>
	<p>8月</p>	<p>ナイトハイク、キャンプ実施</p>
	<p>10月</p>	<p>ふり回り会</p>
	<p>11月</p>	<p>まとめ・報告書作成</p>
<p><b>役割分担の想定</b></p>	<p>(団体の役割) ・地域のつながりや市内の子ども団体の繋がりを活かした、実行委員を募集し、子どもたちのネットワークづくりを行う。 ・ナイトハイクやキャンプ、夜のアクティビティの付き添いや、安全確保など。</p>	
	<p>(市の役割) 社会教育課・・・子ども関係団体への周知と協力依頼</p>	
<p><b>他団体との連携</b></p>	<p>PTA（学校関係周知）、近隣自治会（事業理解）、市内各小学校（事業案内協力）みんなで地域づくりセンター（相談、コーディネート）</p>	

<b>期待される成果</b>	子どもたちやってみたい、夜のキャンプとナイトハイク、アクティビティとしてカブトムシ探しを実現することで、子ども達の達成感を得る。また、子ども同士協力しながら準備することで子どもたちのネットワークや連帯感を育む。そして地域の人や団体とつながる。準備と実施を通して四街道の自然の素晴らしさや、地域をより詳しく知るようになる。 参加者親子 20組 協力団体 3 団体 地域の協力者 5名
----------------	---

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。